

一

問一 a || 懐 b || ヒカ c || アイガン d || コウズカ

e || ゼイタクヒン f || 危惧 g || 高騰（昂騰）

h || 甲殻 i || ショウジン j || 装置

問二 温暖化などの環境負荷が大きいという問題や人間と同じほ乳類を殺すという倫理的問題。（四〇字）

問三 人間への共感 は生存のためのものであり、同じほ乳類でも他の動物への共感 は人間の生存に貢献しないから。（四九字）

問四 人間のもつ他人との共感能力が、食料の生産を分業によって効率的に行う協力体制を可能にし、適切に分配すれば世界中すべての人が必要な栄養をまかなえる理想的な状況を生み出したという点。（八八字）

問五 人間は互いに共感しあうやさしさによって進化してきたが、そのやさしい傾向は同じほ乳類だけでなく、すべての動植物へと拡張され、そして科学技術の進歩が無生物から食料を生み出すことで他の生物の命を奪わなくても人間が生きられるようになると考えている。（一二〇字）

問六 ア・オ

問一

(ア) Ⅱこのように主人の旧友である私が訪ねてきたとは思っていない様子だが

(イ) Ⅱ我が身につきまとうものとしては、あなたをはじめ親しかった人々の昔の面影だが、それも今は昔にまして、どうして会えようかと思っていたところ、あなたが来てくれて、配流の苦難に耐えて生きながらえた我が命のつらさも、今はかえって嬉しく思います。

(ウ) Ⅱあなたと同じように僧形となり、廻国修行に出たい気持ちが出て、あなたのことがうらやましいが、この配流の身として、幕府の目を憚ることも多く、また、俗世の束縛となるこのわが幼子も捨て置けず、未だに在俗であります。

問二

(A) Ⅱ私は幼子を思うと心が慰まず、暗く物思いに沈んだままなので、今夜明るく出ている姨捨山の月を見て仏道心を募らせても仕方がないことよ。

(B) Ⅱ私のことを忘れなければ再び私が暮らすこの麻績の地を訪れてください。式部職であった私が今でも着ている小忌衣が、かつてあなたが見たのとは様変わりして粗末なものであっても。

問三

① Ⅱ十六夜日記

② Ⅱとはすがたり

三

問一 a Ⅱあるいは b Ⅱいやしくも c Ⅱや

問二 漁師が、長江へ向かう蟹の群れの流れの中にざるを置いて

蟹の行路を遮断し、蟹を捕えること。

問三 漁師がざるを設置した後、そのざるをよじのぼりのり越

えて、長江へと逃げ去る蟹は、六割から七割である

問四 形質浸く旧より（も）大なり

問五 蟹が長江から海へ向かう様子が、湿地から長江へ向かう様

子と同様、ひっきりなしで勢いがあるということ。

問六 水虫即ち蟹は、小さい湿地から長江さらには大海を一心に

目指し、その過程で大きく成長する点で、智恵があるといえるが、近年の学者は、色々な思想家の取るに足りない説を学んでも孟子・荀子・揚雄の説を学ぼうとせず、もし学んでもさらに重要な六経を一心に読もうとせず中正の道の要点ばかり求める点で、蟹に及ばないから。（一五〇字）